

第56回 世界遺産検定 マイスター試験  
講評 および 学習方法

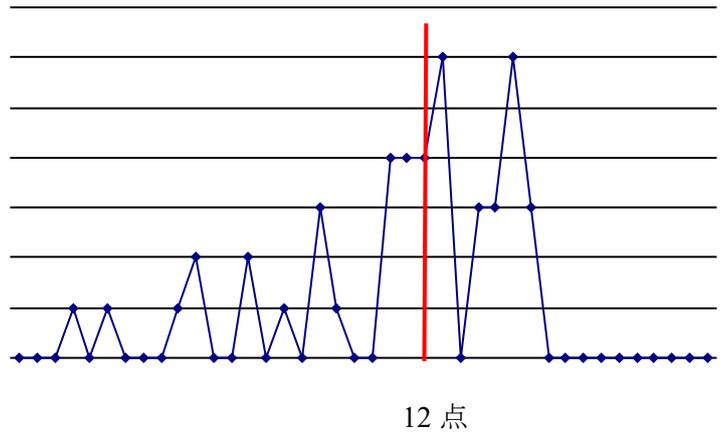
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2024年7月7日（日）  
検定会場：東京・名古屋・大阪  
検定時間：120分  
解答形式：論述形式（記述）  
申込人数：50名  
受検人数：45名  
認定者数：23名（認定率51.1%）

2. 認定点

認定点：12点（20点満点）  
最高点：15点  
最低点：2点



3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
- ビューロー会議
  - 真正性
  - プレリミナリー・アセスメント

- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
- 広報活動                      従来とは異なる新たな破壊の脅威  
教育事業計画                国際的援助

- 3 2022年4月に知床半島沖で発生した海難事故を受け、世界遺産『知床』のプロパティに携帯電話の基地局を整備し、太陽光発電を用いながら携帯電話の使用エリアを拡大する計画が進められてきた（2024年5月末時点）。この計画のメリットと課題を踏まえながら、世界遺産エリアでの安全性や利便性と、保護の両立についてどのように実現することが可能か、具体的な遺産の事例を挙げながら、1,200字以内で論じなさい。

4. 総 評

ここ最近の傾向の通り、1と2でしっかり書けている人が多く、よく勉強されていると感じた。プレリミナリー・アセスメントのところで差が少し出たのは、最新の情報を仕入れているかどうかの差がそのまま出たように感じる。また3は比較的書きやすい内容だったのか同じような論点の解答が多かった。そのため、具体的な事例の使い方や、課題に対する自分の意見の書き方によって点数に差が出た。特に課題のところで観光客の増加を挙げている人が多かったが、抽象的なオーバーツーリズムの説明などに終始している解答は自分の意見が弱く点数も低くなる。自分の得意分野に引き寄せて解答するのはよいが、あくまでそれは出題の内容に沿ったものでなければならない。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「真正性」では、奈良文書を取り上げる人が多かったが、奈良文書によって真正性の概念がどのように変化したのか簡単にでも触れていないと、十分だとは言えない。少ない文字数の中で、短く端的に説明する能力が求められる。キーワードへの肉付けの仕方で点数に差が出た。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。ここはよく準備されているように感じたが、今回も相変わらず指定語句を羅列しただけの解答が少なくなかった。キーワードは出題者が求める説明へのヒントでもあるため、ただ羅列するのではなく、そのキーワードを膨らませつつ客観的な説明を心掛けなければならない。またキーワードに下線を引き忘れていた解答も今回は少なからずあり、減点となった。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えておき**、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：大きな話題となった事故と関連する出来事が出題内容となっており、新聞などのメディアでも取り上げられることが多かったためか、多くの解答で論点が似てしまっていた。安全性や利便性の向上に付随する課題として観光客増加を取り上げるものが多かったが、話題が完全に観光問題になってしまっている解答も多く、出題の主旨から外れてしまっているものは減点となった。観光問題などで準備をしてきてそれを解答に用いるのはよいが、総評にも書いたように、準備してきた内容をいかに出題の主旨に沿った内容に落とし込んでいけるのかが重要になる。日ごろから世界遺産ニュースをよく見て研究している人が多いのはよく感じられたが、アウトプットのところでもったいない解答が今年は特に多かったように感じられて、非常に残念だった。対策をよくしているだけに、あと少しのところ合否が分かれた。また久しぶりに改行や字下げがない解答が少なからずあったのも驚きだった。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。